



はていはてい

HATI-HATI

HATI-HATIはインドネシア語で相手を思いやる時に使うやさしいことばです。



7月5日にセンターは
高浜市女性文化センター館内に移転しました。
(高浜市湯山町6丁目6-4)

<お知らせ> 8月11日～15日までお盆休みをいただきます。



境界不明瞭なやわらかい空間を目指して

公益社団法人トレイディングケア 代表理事 新美 純子

高浜市多文化共生コミュニティセンターが開所して、早くも4年が経ちました。
新型コロナウイルスの流行という大変な時期もありましたが、多くの方に支えていただきながら、
なんとかここまで歩みを進めてくることができました。

この4年間で、たくさんの“応援団”が生まれました。その顔ぶれは本当にさまざま。いろいろな国の方、子どもからご高齢の方まで、性別も関係なく、たくさんの方とつながることができました。

私たちセンターのいちばんの特徴は、「居場所」であることです。ここでは、日本語の勉強をしたり、宿題に取り組んだり、ときには一緒にお料理をしたり、ダンスを踊ったり。何をするでもなく、ただおしゃべりを楽しむ時間も大切にしています。誰もがほっとできる、やわらかくて居心地のよい場所を目指してきました。

このたび、センターは「高浜市女性文化センター」の中に移転しました。新しい場所は、地域のさまざまな方が利用する施設です。これからは、今までのつながりに加えて、地域との結びつきもよりいっそう深めていけたらと思っています。今日は、多文化農園で育ったスイカを持って、ベトナムの方が遊びに来てくれました。スイカを切って、たまたま別の用事で訪れていたお姉さんたちにもおすそ分け。一緒においしくいただきました。こうした“おすそ分け”って、昔から日本に根づいていた温かい文化ですよね。

でも最近は、「余計なことをしないほうがいい」「お隣のことには踏み込まないほうがいい」...そんなふうに、境界線をはっきりさせた関係が好まれるようになってきたようにも感じます。けれど私たちは、こうした“はっきりした境界”にこだわらず、誰もが気軽に立ち寄って、ふらっと話ができるような、そんなやわらかな空間をこれからも育てていきたいと思っています。

今月の日本語 「敬語」の分類が増えた? 日本語教師 林 三郎

外国人にとって日本語学習で難しいのが敬語です。実は、2007年2月に、文化審議会国語分科会から「敬語の指針」が答申され、それまでの尊敬語、謙譲語、丁寧語の3分類から謙譲語と丁寧語を2つに分けて、5分類になりました。

- ①相手を「立てて」述べる尊敬語
- ②自分側から相手側に向かう行為について、その向かう先の人物を「立てて」述べる、「謙譲語！」
- ③自分側の行為・物事などを相手に対して丁重に述べる「謙譲語Ⅱ（丁重語）」
- ④話や文章の相手に対して丁寧に述べる「丁寧語」
- ⑤物事を美化して述べる「美化語」

日本人でも、正しい使い方が難しいと言わる敬語表現ですが、ここでは少しだけ、謙譲語Ⅰと謙譲語Ⅱの違いに絞って、例を挙げてみたいと思います。

「言います」→私が先生に直接申し上げます。

(謙譲語Ⅰ)

→鈴木と申します。(謙譲語Ⅱ)

「行きます」→御社に伺います。

(謙譲語Ⅰ)

→夏休みに京都に参ります。(謙譲語Ⅱ)

違い、なんとなくわかりましたでしょうか?

ベトナム人の楽しいお話し

～日本から見える新しいビジョン～

私は日本で暮らすベトナム人です。今年の選挙を見て、とても嬉しく感じました。というのも、約4分の3の政党が、国際交流の促進や多文化共生の推進に賛成、または反対しない姿勢を示していたからです。

これは、私が住むこの国が、政治や経済の面でも世界に向けて開かれた、前向きな姿勢を持っていることの表れだと思います。昨日、ある政治家の演説のビデオを見ました。その中で「私たちは皆、人間です。手を取り合って、より良い生活をつくりましょう」という言葉が心に深く残りました。

それはただのスローガンではなく、人として大切な価値を伝えるメッセージだと感じました。日本はかつて鎖国政策を取っていた時代がありました。1853年以降は自ら国を開き、西洋の知識を積極的に取り入れて急速な近代化を成し遂げました。それは、日本がもともと持っていた力の証だと思います。そして今、日本は多文化の中でさらに成長できるチャンスを迎えていくと感じます。

私は、こうしたビジョンを持つ日本が、国内の力だけでなく、国際社会とのつながりを大切にしながら、これからもっと発展していくと信じています。そして、私のような外国人も、日本で安心して暮らし、学び、社会に貢献できることを心から願っています。

ジウ



スウェーデンの夏の介護現場を支える人たち～常勤職員の夏季休暇の裏で～ アンジー

前回のHATIHATIでは、難民としてスウェーデンへ来て勉強の傍らアルバイトとして介護の仕事をしている若者たちについて紹介しました。今回は、スウェーデンの介護現場における「夏のアルバイト」についてご紹介します。スウェーデンの介護職員は、夏季に長期の休暇をとることが一般的で、長い時には4週間現場を離れる人もいるそうです。その代替要員として必要となるのが、「夏季の代替職員(summervikarie)」と呼ばれる人たちです。その担い手には、夏季休暇中のスウェーデンの学生、難民・移民背景を持ち介護の仕事を始めようとしている人たち、つまり介護の経験がまだ浅い人たちが多く含まれます。先週もご紹介した人たちに介護現場での「夏のアルバイト」の経験について話を聞くと「常勤職員がみんな一齊にいなくなり、とても大変だった」と振り返っていました。また一人は、「周りはみんな代替職員で、業務でわからないことがあっても聞く相手がいなかった」といいます。

常勤の介護職員のワークライフバランスを尊重しながらも、時間給の介護職員一人の多くは難民・移民背景をもつ人になっていますーも働きやすい労働環境をどう作るのか、また多様な人が働く介護現場で介護の質をどう維持していくのかは、スウェーデンが向き合っていかなければならない課題だといえます。



編集後記

皆さんは、ベトナム人スタッフのジウさんが書いてくれた「選挙についての思い」を読んで、どんなことを感じましたか？

私はこの文章を読んで、日本人である自分自身が、日本の社会や未来についてどれだけ真剣に向き合ってきたかを思われました。

日本で暮らす外国の方が、こんなにも深く温かいまなざしでこの国を見つめていることに感動し、そして少し恥ずかしさも覚えました。

でも、それは新たな学びの始まりでもあります。このような声をもっと多くの人に届けることも私たちの役割だと感じています。陽子



@TSUNAGU_TAKAHAMA

公益社団法人
トレイディングケア
〒444-1303
愛知県高浜市小池町6-5-6
TEL 0566-57-7700
FAX 0566-55-1305



日・月・祝日はお休みです。